

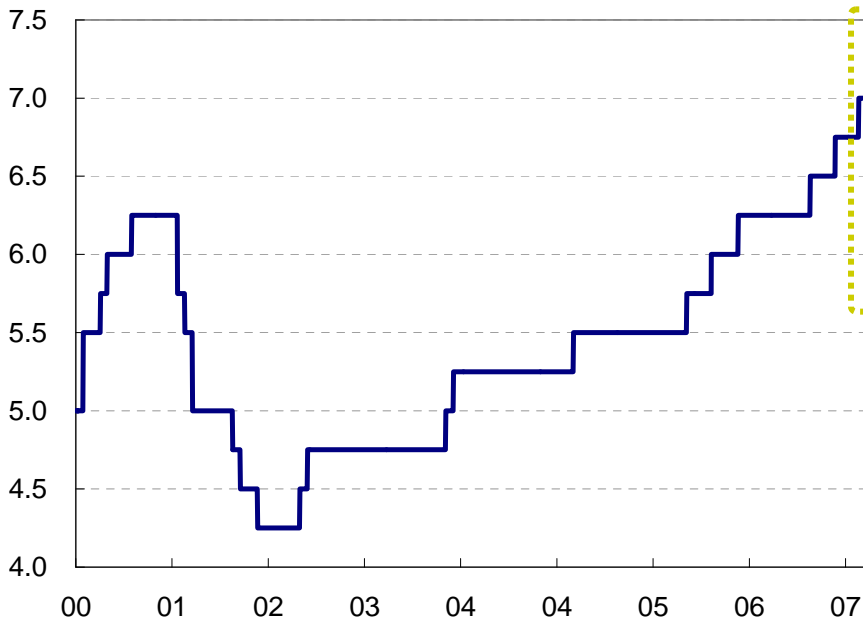
豪州の利下げと足元の投資環境について

オーストラリアの中央銀行である豪州準備銀行（RBA）は、10月7日、政策金利であるオフィシャル・キャッシュ・レートを1.0%引き下げ、6.0%とすることを決定しました。これは、市場予想の0.5%を上回る大きな利下げとなりました。

そこで、今回の利下げの背景と足元での投資環境についてお伝え致します。

豪オフィシャル・キャッシュ・レートの推移

(%) (2000年1月4日～2008年10月8日)



(信頼できると判断したデータを基に日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

【利下げの背景】

これまで堅調な経済成長を続けてきたオーストラリアですが、2008年4-6月期のGDP成長率は、前年同期比+0.3%と2004年以来の低水準となっており、景気減速の兆候が現れはじめていました。こうした中、RBAは9月に約7年ぶりとなる利下げ（7.25%→7.00%）を実施しました。そして、この10月にはさらに0.5%の利下げが予想されていました。

こうした中、足元での米国をはじめとした金融機関の破綻・救済報道などによる金融不安の影響を受けて、金融機関の資金調達コストは急増しています。豪州の銀行は、不良債権比率が0.36%と比較的健全ではあるものの、その影響を余儀なくされていました。こうした国際的な金融市場の混乱の影響を抑える目的から、RBAは市場予想を上回る大幅な利下げを実施しました。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【足元の投資環境について】

オーストラリアでは、世界的な金融不安の影響に加えて、今年夏以降の商品市況の下落を受けて、株式市場は下落基調にありました。しかし、予想以上の追加利下げが好感され、7日の株価は下げ止まりを見せました。

債券市場では、世界経済の減速懸念を背景に、商品、株式市場から資金が流入する「質への逃避」の動きが鮮明となり、債券は買い進められました（利回りは低下）。9月の利下げ実施後は、利回りが上昇する局面も見られましたが、世界的な信用収縮が強まる足元では、再び利回りは低下傾向となっています。

為替市場では、世界的な景気後退懸念に加えて、中国などの経済成長減速による資源需要の減少懸念から、資源国通貨である豪ドルが売られました。また、世界的な信用収縮を受けて、キャリー取引（低金利通貨で資金を調達し、高金利通貨で運用する取引）を解消する動きなどもあり、足元で大きく売られる展開となりました。

2008年10月7日のオーストラリア金融市場の動き

	10月7日	前日比	9月末比
株価(S&P/ASX 200)	4,618.70	1.7%	0.4%
債券(10年債利回り)	5.06%	-0.06%ポイント	-0.34%ポイント
為替(豪ドル(対円))	73.22円	-7.7%	-11.6%

(信頼できると判断したデータを基に日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

【今後の動向について】

世界景気が大きく減速すれば、これまで堅調を保持してきたオーストラリア経済においても、企業収益の下押し圧力となることが考えられます。加えて、主な貿易相手国である中国の動向は同国経済にとっても影響力が大きいいため、今後も注視していく必要があります。

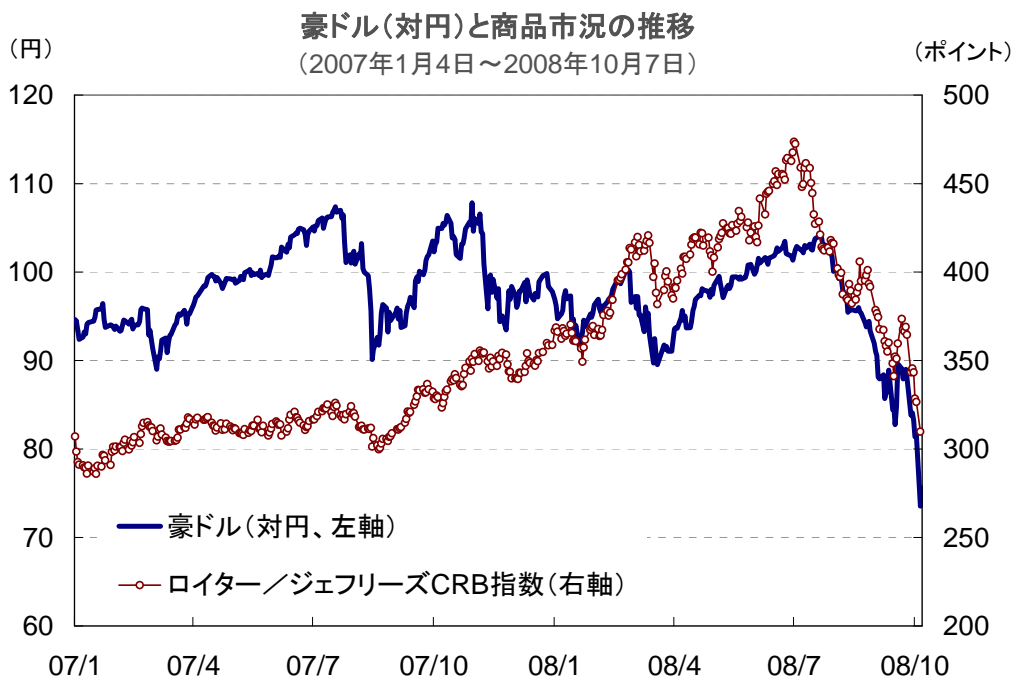
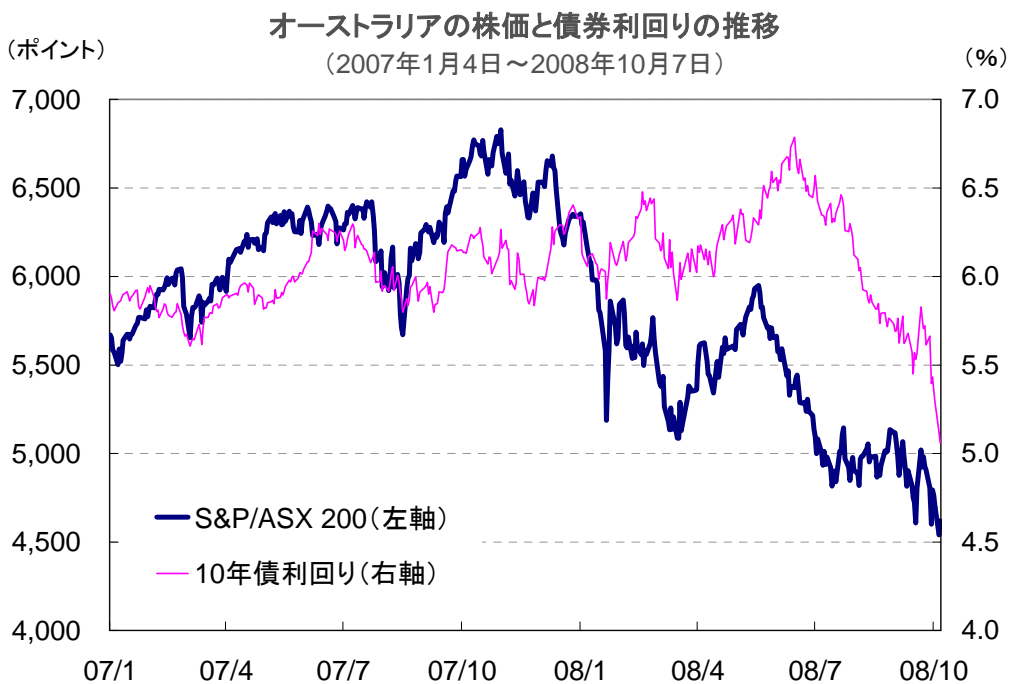
しかしながら、オーストラリアの貿易収支は改善傾向にあり、雇用も引き続き堅調です。また、今回の大幅利下げは、同国の今後の景気後退を回避するためにも前向きな処置と考えられます。

今回の大幅利下げによって金利は低下するものの、同国が依然として高金利国であることに変わりはありません。当面は不安定な動きとなることが予想されますが、現在の世界的な信用不安が落ち着きを取り戻せば、再び同国金利への魅力が再認識されると考えられ、そのことが豪ドルを下支えする要因になると見えています。

以上

- 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【ご参考】



(信頼できると判断したデータを基に日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

nikko am
fund academy

日興AM
ファンドアカデミー
とは？

投資信託を「つくる」会社、日興アセットマネジメントが2008年にスタートした、投資教育のプラットフォーム。
「すべての投資信託に共通する大切なこと」をテーマに、より深い理解と納得のもと購入していただくための活動を展開しています。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。